

令和三年度冬季鎌倉俳句&ハイク

期間 令和三年十一月一日〜令和四年一月末

選者 星野椿、星野高士

投句数 三、二〇六句

特選三句

天

凍雲にとどきささうなる鳶一羽

東京都町田市 星野 佐紀

地

道問はれ道連れとなる探梅行

神奈川県横浜市 田阪 武夫

人

初春の人を流すや段葛

神奈川県横浜市 山下 省三

入選句

一般の部(三十句)

一人占めして去り難し冬紅葉

大阪府豊中市 安藤 知明

円覚寺心はまるく日向ぼこ

神奈川県鎌倉市 飯塚 れいな

寒梅の小径小仏東慶寺

東京都港区 伊集院 秀樹

冬夕焼富士のシミ絵を見せにけり

神奈川県鎌倉市 小野寺 信雄

奥深き駆け込み寺や冬紅葉

神奈川県横浜市 加藤 文男

舞殿の空に鳶の輪寒日和

神奈川県藤沢市 神谷 章夫

はせでらの池にうつるは冬もみじ

神奈川県横浜市 小松 大樹

寒梅や谷戸吹く風にふるえたり

神奈川県鎌倉市 近藤 智之

主菓子に古都の甘さよ小六月

東京都武蔵野市 齊藤 百合子

蠟梅の艶こぼれけり谷戸の朝

神奈川県横浜市 佐藤 満

ほとばしる生命烈しく寒紅梅

神奈川県大和市 寺尾 明子

落椿崖の途中に留まれり

静岡県静岡市 伴野 ひろ美

虚子思ひ寿福寺めぐる小春かな

神奈川県横浜市 中川 哲



鎌倉の四季折々を十七文字に・・・  
鎌倉俳句&ハイク実行委員会  
〒248-0016 鎌倉市長谷1-5-3  
公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団内  
鎌倉俳句&ハイク実行委員会  
TEL 0467(22)5010  
<https://www.kamakura-haiku.com/>

中天へ身を反らし見る寒の月

神奈川県茅ヶ崎市 原田 博之

友達れて写経と海辺冬休み

東京都世田谷区 古溝 理沙

先帰るその一言が除夜の鐘

東京都大田区 増田 健吾

観音や半眼の先ひなたぼこ

埼玉県朝霞市 村瀬 彩

池に落つ雪の音聞く建長寺

広島県神石郡 室伏 遼太

月冴えて河面に揺れる街路灯

神奈川県横浜市 矢地 竹男

段葛青空にのぶ冬芽かな

神奈川県川崎市 和田 容子

子どもの部(十句)

石段を余すことなく紅葉散る

東京都昭島市 金塚 優輝

帰り道見上げた空は冬銀河

千葉県市川市 服部 将周

冬ぬくし高德院にリス二匹

千葉県市川市 松丸 智也

ななくさでこころをいやすよるごはん

神奈川県鎌倉市 白土 空

初夢が覚い出せずに不安気味

神奈川県鎌倉市 杉岡 弥規

雪だるま久しぶりだねこんには

神奈川県鎌倉市 森 理緒

ことしこそじよのかねまで起きていた

神奈川県鎌倉市 中山 葉瑠

砂浜で海と富士山雪かぶり

埼玉県所沢市 亀卦川 充

大仏と肩をならべる十一の冬

東京都江東区 井上 琢登

除夜の鐘澄んだ空気をかけぬける

神奈川県横浜市 鈴木 美緒

(順不同)